

# その時東京はどう変わった？ ～1964オリンピックの前後～

1964年(昭和39年)、日本の首都東京でアジア初の夏季オリンピックが開催され、大会には94の国と地域の代表が参集しました。

この大会を着実に成功させたことで日本は、戦後19年目にして、戦禍からの復興を世界に示すことができたといえます。

開催前の日本の目立ったインフラは、当時、世界一の高さのテレビ塔、東京タワーくらいのものでした。

開催にむけて、世界初の高速鉄道である東海道新幹線、首都高速道路、東京国際空港(羽田空港)ターミナルビル増築・滑走路の拡張、東京モノレールなどが次々と整備され、世界の建築史に名を残すような屋内外の競技場が完成しました。

その後、日本は、このオリンピックを機に右肩上がりの高度成長を加速させました。

この企画展では、そんな時代背景の東京を地図や空中写真から振り返り、どう変わっていったのかをわかりやすく展示・紹介します。

競技場が建設される前と後の周辺の変化、高速道路が無かった頃の都内の写真、埋め立て前の東京湾の写真、そして続々と整備されるインフラ、建築物。

ぜひその時の東京をご覧ください。

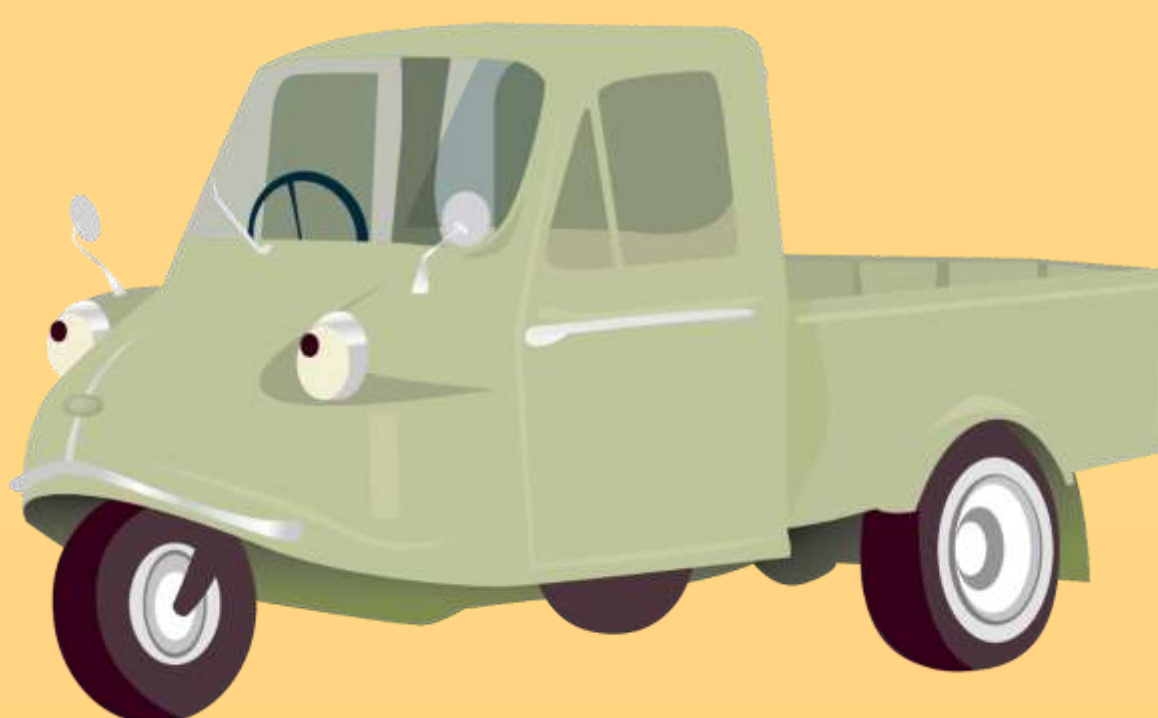
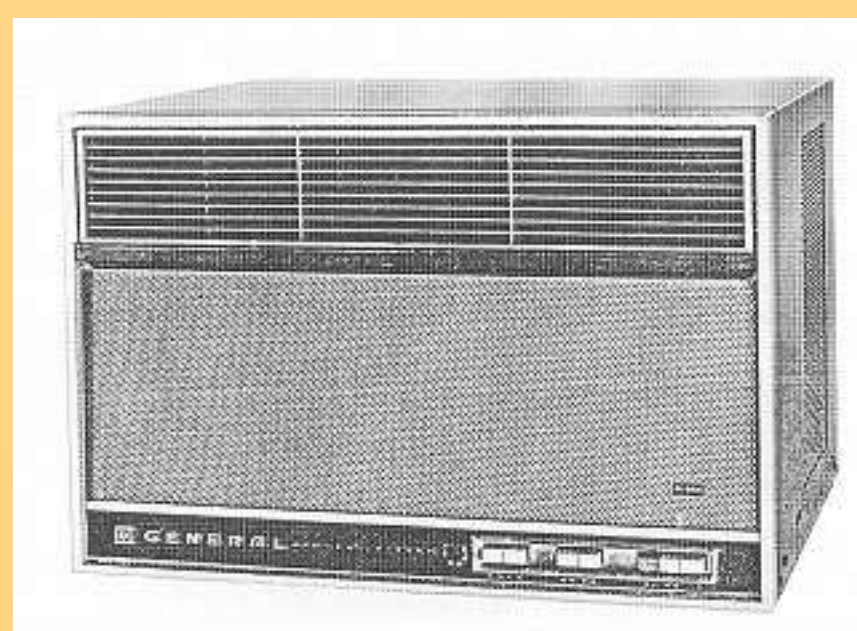
# 1960年代の東京

## オリンピック開催時の東京は？

1959年（昭和34年）5月26日西ドイツミュンヘンにて開催された「第56次IOC総会において、第18回オリンピック競技大会の開催地が「東京」に決定しました。1964年（昭和39年）大会に向けて、5年あまりの準備期間で東京を中心とした大規模なインフラ整備が実施され、多くの良質なインフラストックをもたらすことになりました。

1950年代後半から1970年代前半にかけての好景気は、「高度経済成長期」といわれ、中でも1962年（昭和37年）から1964年（昭和39年）の2年間は「オリンピック景気」と呼ばれています。

東京オリンピックの開催を前に競技場等の施設（国立競技場、日本武道館、駒沢オリンピック公園等）交通機関・道路等のインフラ（東海道新幹線、東京モノレール、高速道路の整備等）宿泊施設といった様々な整備が進みました。中でも、東海道新幹線の開業には、約3,800億円の巨額の費用が投じられました。最高時速210キロメートル、東京―新大阪間を4時間で結ぶ東海道新幹線は、「夢の超特急」とうたわれ、東京オリンピック開催直前の10月1日に開業を迎えました。競技施設の建設やインフラ整備などは経済活動を活性化させ、それに伴う雇用を創出、個人消費を促し、景気を拡大させる結果となりました。



1950年代に入ると一般家庭では、三種の神器とよばれる「冷蔵庫」、「白黒テレビ」、「洗濯機」が普及しはじめます。東京オリンピックがテレビの普及率を押し上げる契機となりました。その後、三種の神器は1960年代に「クーラー」、「カー」、「カラーテレビ」の3つの頭文字をとった3Cに代わり、人々の生活に余裕が生まれ、より豊かになっていきました。

# 首都高速道路(京橋) 1

首都高速道路が初めて開通したのは、1962年(昭和37年)12月の京橋-芝浦間(4.5km)。1年後の1963年(昭和38年)12月には、本町-京橋(2.2km)、呉服橋-江戸橋JCT(0.6km)、芝浦-鈴ヶ森(6.1km)の各区間が開通しています。1964年(昭和39年)9月(オリンピック直前)には羽田空港とオリンピック会場が接続されました。



## 京橋付近

1949年(昭和24年)



# 首都高速道路(京橋) 2

1963年(昭和38年)

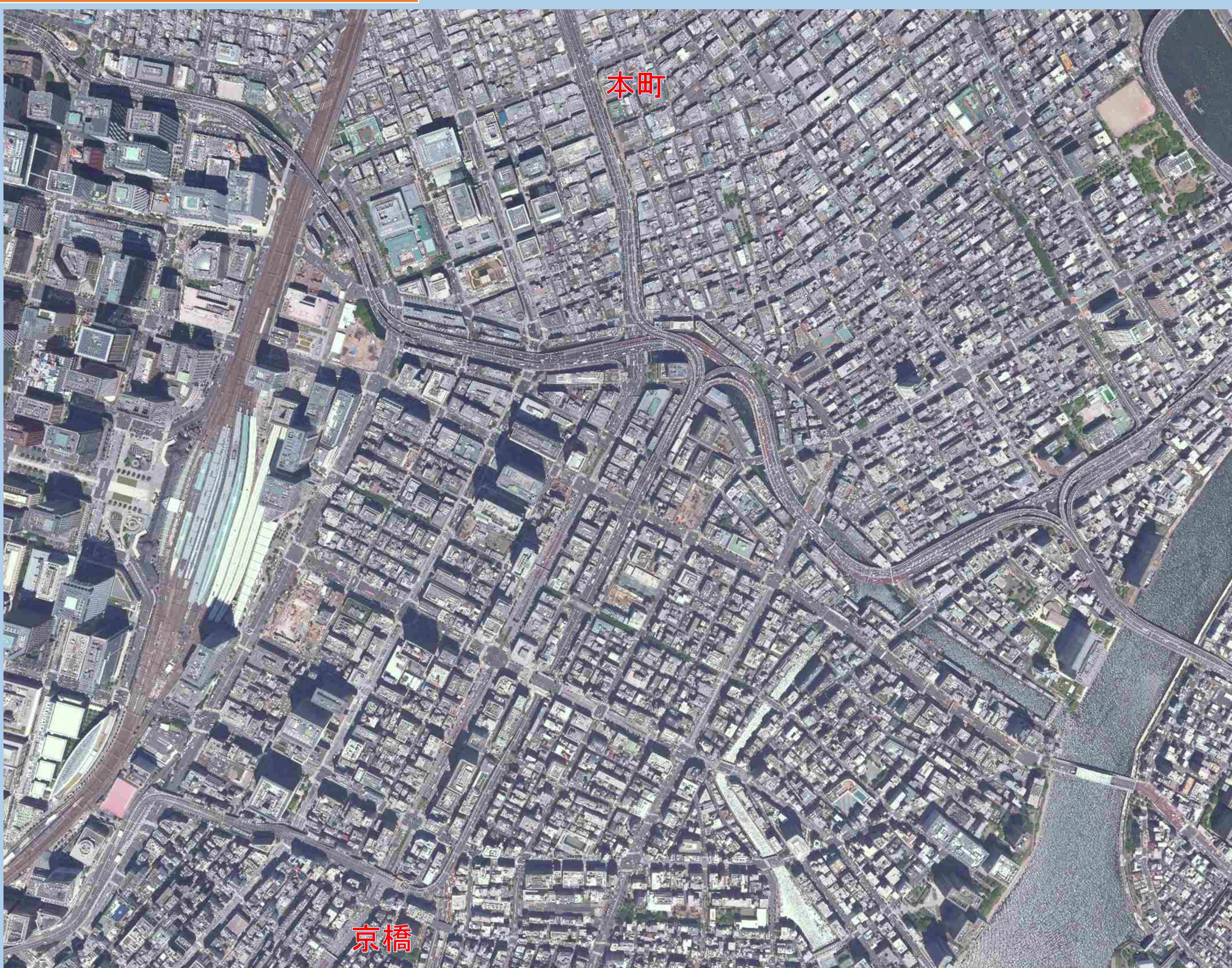


1963年(昭和38年)12月には、本町ー京橋(2.2km)の区間が開通しています。写真から川に沿って工事している様子がわかります。短期間で整備するため、なるべく用地買収が伴わない、河川を利用して整備しています。



日本橋から見た首都高速道路

2019年(令和元年)



# 首都高速道路(芝浦) 1

首都高速道路が初めて開通したのは、1962年(昭和37年)12月の京橋-芝浦間(4.5km)1年後の1963年(昭和38年)12月には、本町-京橋(2.2km)、呉服橋-江戸橋JCT(0.6km)、芝浦-鈴ヶ森(6.1km)の各区間が開通しています。1964年(昭和39年)9月(オリンピック直前)には羽田空港とオリンピック会場が接続されました。



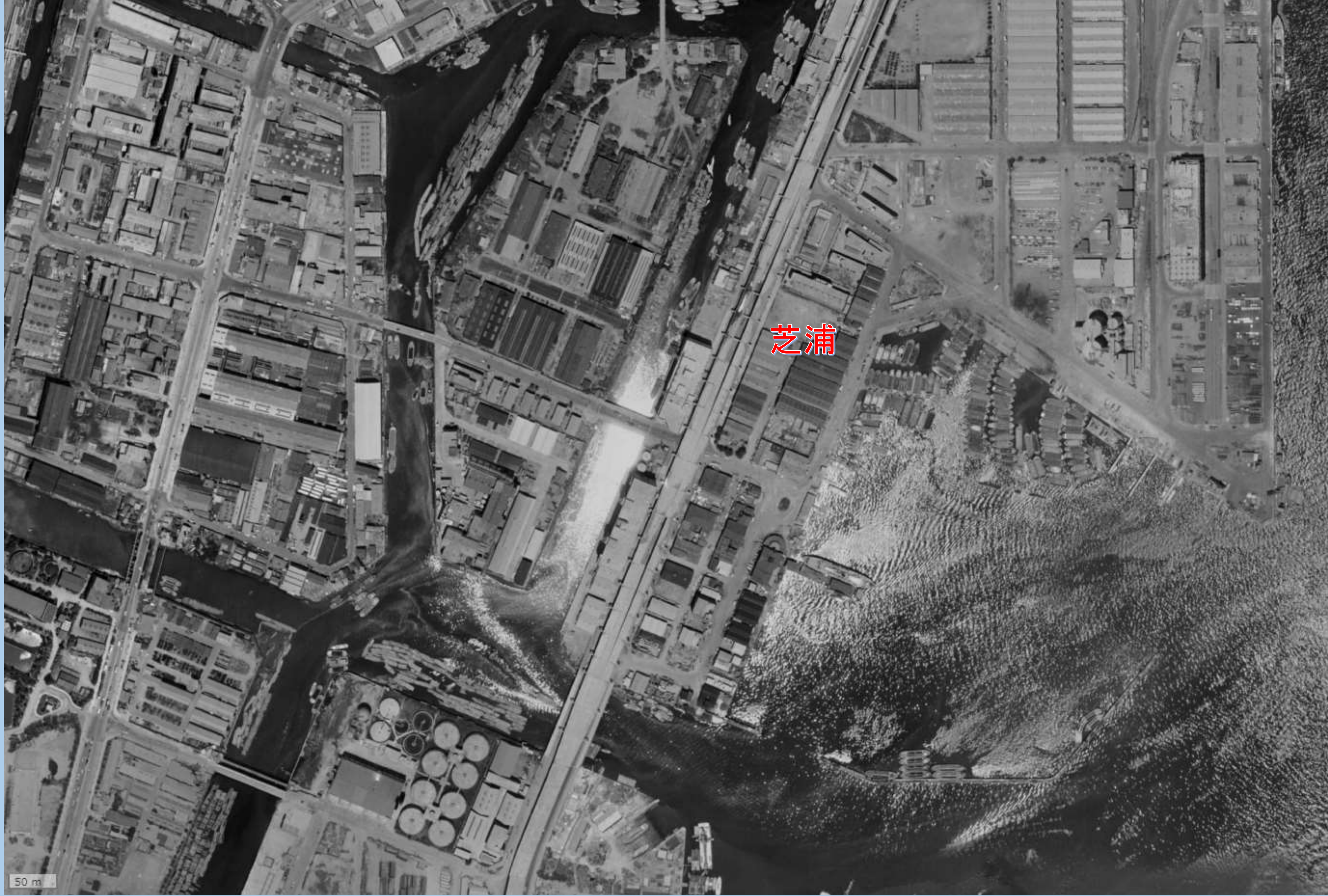
## 芝浦付近

1948年(昭和23年)



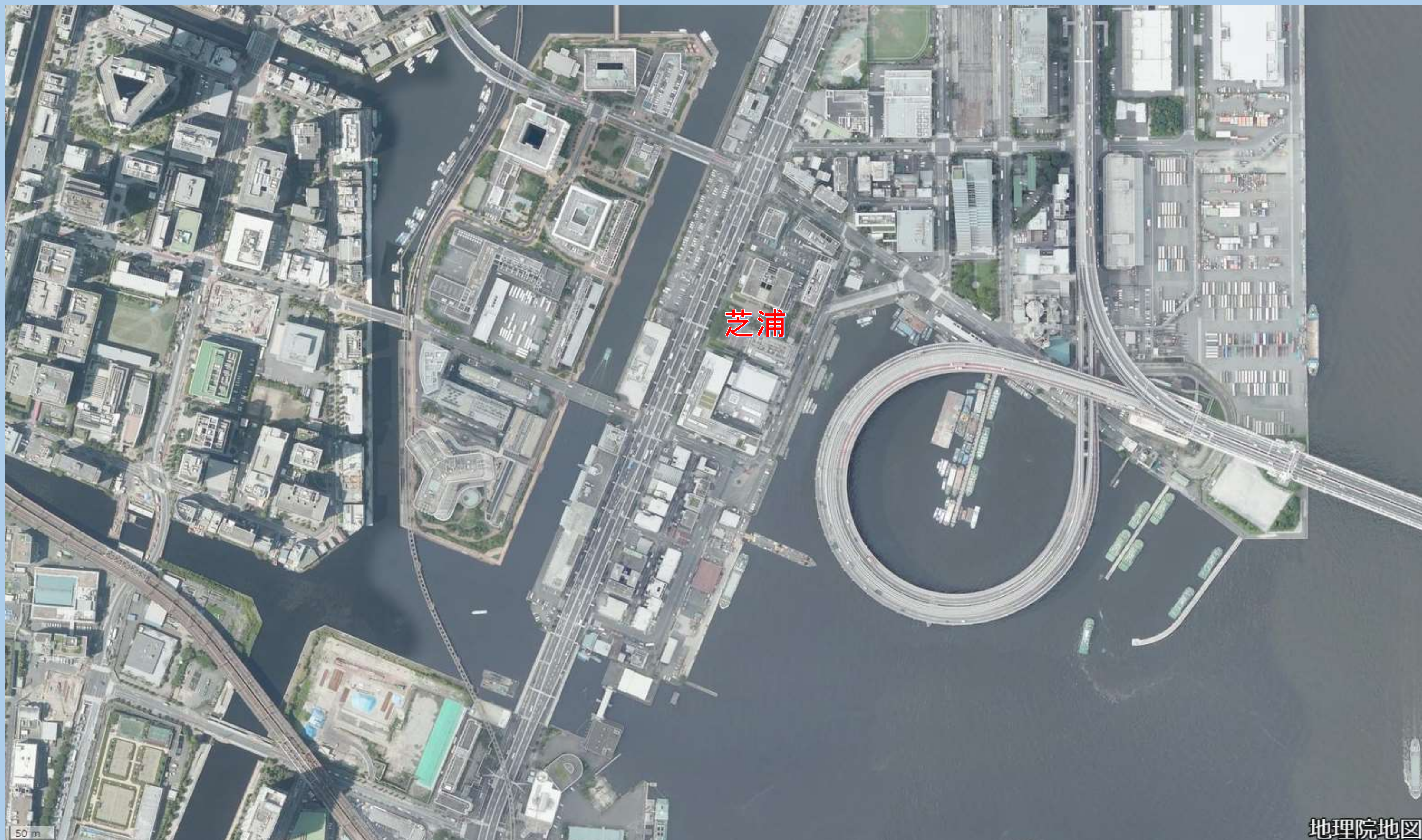
# 首都高速道路(芝浦) 2

1963年(昭和38年)



1962年(昭和37年)12月に京橋-芝浦間(4.5km)の区間が開通しています。埋め立て地に道路を建設しているのがわかります。

2019年(令和元年)



海上にレインボーブリッジが見えます。東京湾岸地区は、オリンピックを契機にさらに開発が進みました。

# 首都高速道路(鈴ヶ森) 1

首都高速道路が初めて開通したのは、1962年(昭和37年)12月の京橋-芝浦間(4.5km) 1年後の1963年(昭和38年)12月には、本町-京橋(2.2km)、呉服橋-江戸橋JCT(0.6km)、芝浦-鈴ヶ森(6.1km)の各区間が開通しています。1964年(昭和39年)9月(オリンピック直前)には羽田空港とオリンピック会場が接続されました。



## 鈴ヶ森付近

1947年(昭和22年)



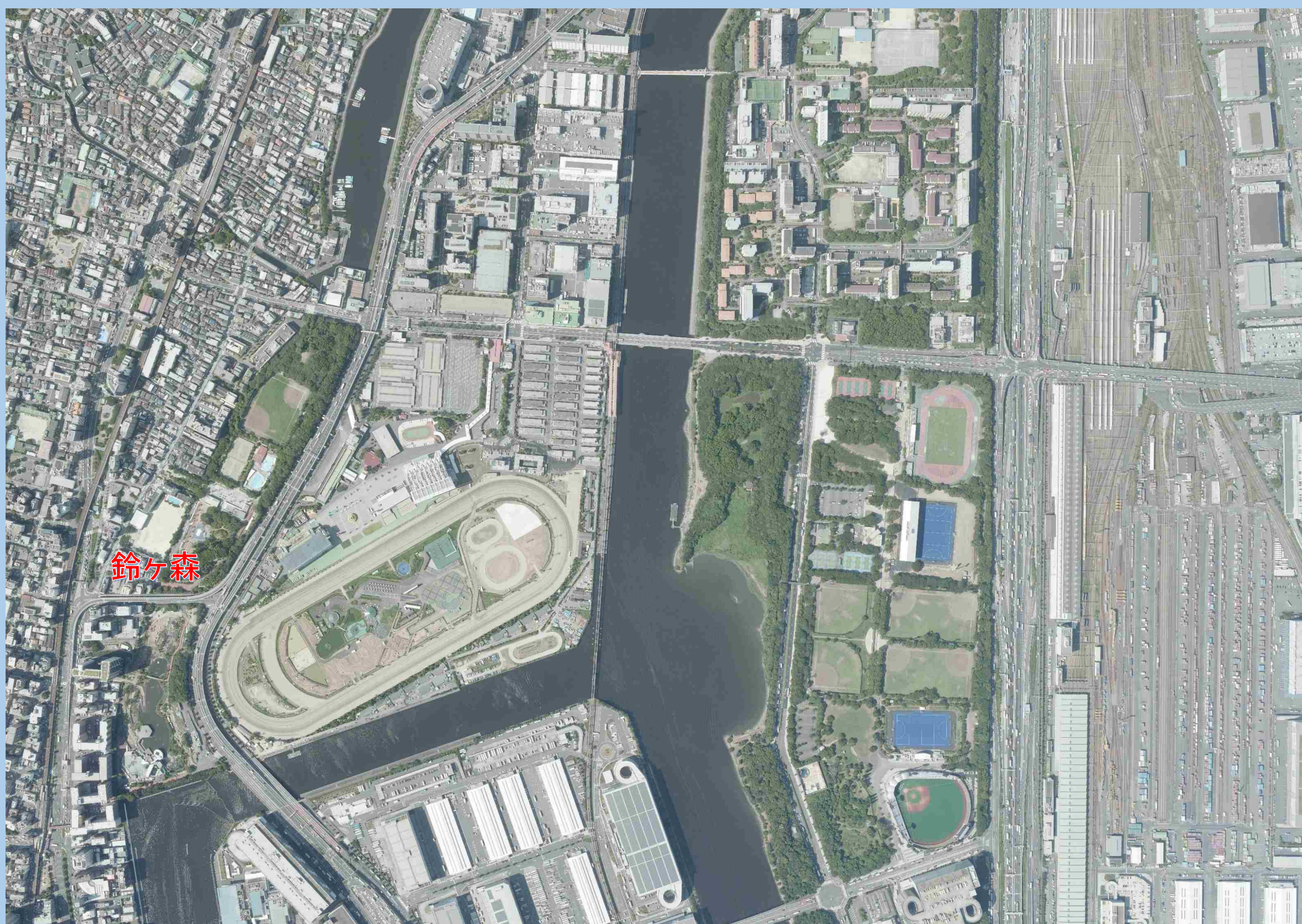
# 首都高速道路(鈴ヶ森) 2

1963年(昭和38年)



鈴ヶ森付近には大井競馬場が建設されています。競馬場の開設は1950年(昭和25年)。オリンピック開催前年の空中写真のため、首都高速道路まだ建設中です。

2019年(令和元年)



競馬場東側(右側)の地帯はオリンピック開催後、昭和40年代に埋め立て開発が進められました。鈴ヶ森東側の海岸線は、陸地に挟まれ運河となっています。